

週刊 タバコの正体

タバコは火をつけなければ煙が発生しません。最近、普及し始めた加熱式タバコは火を使いませんが、まだ多くの喫煙者はライターで火をつけてタバコを吸っています。吸い終わったタバコは、火を消した事を確認してから処分するのが常識です。火のついたままのタバコを捨てれば火事になりますから、そんな無神経で無責任な事をする人はいないでしょう。しかし、全国には推定で約1880万人の喫煙者がいます。その人たちが毎日何本ものタバコに火をつけているのですから、つ

いっかりタバコの火を消し忘れたり、消したつもりが消えていなかったというケースもありえます。

たばこを綿布団の上に落とす

綿布団の上に火の付いたたばこを置くと、たばこが接した部分を中心に、ほぼ円状に布団の無炎燃焼が継続します。この状態で布団上に紙類等の燃えやすい物を置いていたり空気の流動等があれば有炎となります。



神戸市 HP から

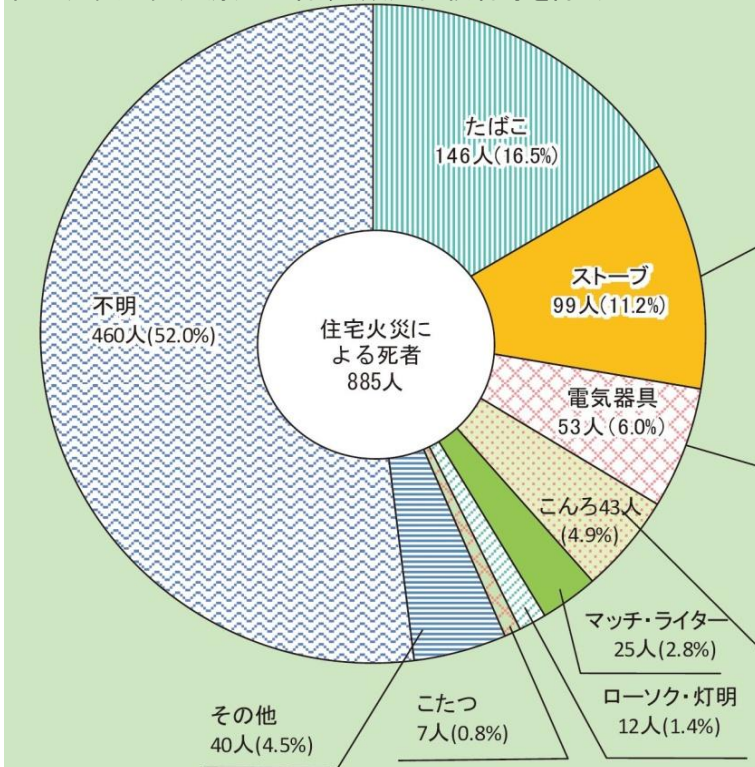
ところで、火のついたタバコの温度は何度になるか知っていますか。なんと700℃もあります。だから、火のついたタバコを放置すると、左の写真のように炎がでない無炎延焼が始まります。早い時点で発見できれば大事にいたりませんが、この状態が続くと何かのはずみで一気に炎を出して燃え始めるのです。

じつは、タバコの火が原因の火事はかなり多いのです。左のグラフを見てください。平成28年度の消防庁の集計データによると、住宅火災で亡くなった人のうちタバコが原因のケースが16.5%を占めています。喫煙者の不注意が146人もの人命を奪っています。

タバコは喫煙者の健康を少しずつ奪っていくだけではなく、ある日突然、人の命も奪ってしまうこともあるのです。私たちは、この事実を認識しておかなければなりません。

産業デザイン科 奥田 恭久

住宅火災の発火源別死者数(放火自殺者等を除く)



平成29年度消防白書から